

關東陰陽家觸頭藪兵庫煩に付、代黒田貞之允より、靈巖島鹽町家主久右衛門店水村玄春相手
 取候難澀出入去辰十一月、中當御奉行所^江奉出訴候處、御裏書奉頂戴相附、相手方よりも返答
 書を以、夫々御答申上、雙方被召出、數度御吟味之上、御理解被仰聞、難有仕合奉存候、然處此節取
 扱人立入、雙方都而懸合之熟談、内濟仕候趣意、左に奉申上候、

一右出入一件、水村玄春儀、寛政八辰年より、土御門家配下入之儀願出、職札相渡、渡世仕來候處、去
 辰七月、吉田家より、呼名和泉と御許狀頂戴仕候に付、土御門家法令に相背、配下取締り方差支
 候付、職札差戻候様申聞候得共、難澀仕、職札相歸不申候に付、不得止事奉出訴候處、此節玄春儀、
 天社神道職札并呼名許狀、土御門家よりも申受、以來陰陽道職業、前々之通仕度段、取扱人を以
 相詫候上は、土御門家役所規定も相立、差支無御座、尤吉田家に而も、差支無御座候間、雙方納得
 之上、内濟熟談仕、偏御威光と難有仕合奉存候、然上ハ、右一件に付、重而御願ケ間、數儀、毛頭無御
 座候、爲後證連印濟口證文差上申所、仍如件、

文化六巳年十二月

關東陰陽家觸頭藪兵庫煩に付代

訴訟人 黒田貞之允

靈巖島鹽町家主 久右衛門店

相手 水村伊勢

寺社御奉行所

〔觸留^七〕巳八月廿一日、寺社奉行より申上書附御下^グ、評議致し申上候、^{○中}

南北略 小口年番

名主共

關東陰陽師觸頭藪兵庫、并同人方に同居罷在候、吉村織部儀、是迄芝田町四丁目家主善次郎店裏
 屋當分之内借受住居罷在、右は去ル寅年、町道場之儀に付、被仰出之趣を以、元より表店住居ハ不
 相成身分に候處、兵庫は觸頭相勤、其上年々土御門家より獻上之使者旅宿に相成、右御品をも相
 仕立、殊に數人之配下呼出、御觸并教諭筋等申聞候儀も、裏家住居に而ハ行届がたく、織部ハ、御由